

【静岡】

《経済》 図面のない部品作る技術生かす SONECが中国文化財複製に挑戦

2012年3月1日



高度な技術を要する部品の製造に挑戦するソネックの生産現場＝浜松市北区で

精密機械部品製造のSONEC(ソネック、浜松市北区)が、高い技術力を必要とする部品製造に取り組んでいる。図面のない部品を複製する技術に磨きをかけて、これまでに生産してきた輸送機器部品以外に、中国の文化財の複製をつくるという新ビジネスに乗り出す。(白山泉、写真も)

1946年に創業したソネックは、これまでは主に大手自動車メーカーの部品を手掛けてきた。1970年代の高度成長期以降、機械による大量生産が進んで仕事は増えた。しかし、「会社が潤うほど、人が直接手掛ける作業は減り、技術力は落ちていった」(曾根大輔専務)という。

80年代に入って為替が円高基調となる中で、企業の海外シフトが進んだが、小規模な企業にとって海外進出はリスクが高く、簡単ではなかった。「機械のボタンを押すだけでできる製品では生き残っていけない」との考えが強くなった。

高度な技術が必要とされ、製造できない部品への生産へシフトしていった。大学や研究機関とともに部品加工の技術を研究しながら、製造が難しい製品を量産化する仕事に挑んできた。

昨年夏、工業用ミシンの糸をたぐり寄せる部品に取り組んだ。鋳型で作ったが、複雑な形状の部品だ。今ではメーカーが生産をやめたため交換部品が手に入らないとの依頼を、遠州紙工業(同市南区)の伊藤洋夫社長から受けた。

「どこを探しても同じ部品がない。図面が残っておらず、部品を作ることができなかった」と明かす伊藤社長。曾根専務は「これまでの仕事は図面から製品を作るのが当たり前だった。伊藤社長から常識を超えた着想をもらい、挑戦できた」と話す。

会社が培ってきた技術力と、コンピューター上で設計したプログラムを工作機械に送るデジタル情報処理技術を使いこなすことで、複雑な形状を細部まで復元した部品が完成した。曾根専務は「今まで受注したものより少し難しいものに挑戦している。この繰り返しで技術を上げていきたい」と意欲的だ。

「図面がなくても形を復元できる技術」をステップアップさせて今は、中国の文化財のレプリカ制作に生かそうとしている。中国の博物館では、所蔵する文化財のレプリカを国内外の観光客向けに展示する需要が高まっている。タイの首都バンコクに拠点を置く貿易会社を通じ、博物館と話を進めている。



鋳型で作った従来品(手前)と、ソネックが再現した部品(奥)

